

一般社団法人 日本化学連合

平成 26 年度事業報告

日本化学連合が「任意団体」から「一般社団法人」に移行してから 5 年目となり、中尾真一新会長（前副会長）のもと、副会長、理事、監事の半数以上が交替して新しい陣容となり、化学系 17 学協会の連合組織として活動を展開した。

昨年度と同様に、運営委員会では化学コミュニケーション賞 2014 の実施、企画委員会では第 8 回日本化学連合シンポジウムの実施、また将来構想委員会では昨年度の定款改訂を踏まえて、さらに見直しを行った。

1. 会員の増減と会費収入ならびに補助金収入

正会員の会員数は 17 学協会であり、会費収入は 490 万円であった。賛助会員の会員数は団体 2、個人 7 であり、会費収入は 38 万円であった。いずれも、昨年度と同様であった。

また、26 年度も（株）化学工業日報社および（一社）化学情報協会より本連合主催事業「化学コミュニケーション賞 2014」の活動に対し、計 100 万円（@50 万円）の共催金を受けた。

2. 日本化学連合平成 26 年度活動報告

2.1 正会員学協会会長会

昨年度に引き続き、正会員 16 学協会（日本エネルギー学会は欠席）の会長（代理出席を含む）を招聘し、9 月 2 日に開催した。先ず中尾会長から本連合の事業活動についての紹介があり、次いで各学協会の現状と課題について ppt 資料を用いて説明があった。各学協会の共通する課題は、会員数の減少、法人化による経理処理の複雑化、学会誌の発行とその位置付けなどであった。終了後、懇親会を開催し、各学協会の懇親を深めた。

2.2 正会員学協会事務局長会

上記の会長会において各学協会の共通する課題が取り上げられたが、何分、一学協会当たり 5 分という限られた時間であったので、それぞれの学協会の詳しい事情を聴くことはできず、また質疑も不十分であった。そこで、今期は 11 月、2 月、5 月の 3 回に分けて、各学協会の運営についての実態を把握しておられる事務局長による事務局長会を開催し、各回 5~6 学協会から内情を詳しく説明していただくことによって、各学協会の課題や問題点を共通認識するとともに、可能であるならば本連合からその解決策を提案することにした。

11 月 25 日に開催した第 1 回事務局長会では、クロマトグラフィー科学会、高分子学会、触媒学会、石油学会、電気化学会から、また 2 月 19 日に開催した第 2 回事務局長会では、光化学協会、ゼオライト学会、繊維学会、日本エネルギー学会、日本ゴム協会、日本薬学会から、それぞれ ppt を用いた詳しい説明があり、活発な質疑応答がなされた。なお、5 月に開催予定の第 3 回事務局長会で発表予定の学協会は、化学工学会、日本化学会、日本セラミックス協会、日本地球化学会、日本分析化学会、有機合成化学協会である。

2.3 化学コミュニケーション賞 2014

日本化学連合では設立の趣旨である『化学関係団体が賛同して開催する事業』を強化発展させるため、わが国において化学・化学技術に関係する啓発活動や情報発信などにより、化学教育、化学産業の育成、発展に貢献した個人ならびに団体を表彰する制度を平成 23 年度に創設した。本年度（平成 26 年度）も「化学コミュニケーション賞 2014」を主宰した。

今年度も昨年に引き続き理事(運営委員会委員)を中心として「化学コミュニケーション賞 2014」の企画、立案、募集が実施された。

[運営委員会]

委員長	村松 淳司 (代表理事・副会長)
副委員長	関根 泰 (理事 石油学会)
委員	五十嵐 哲 (常務理事)
委員	鞠谷 雄士 (理事 繊維学会)
委員	里川 重夫 (理事 ゼオライト学会)
委員	瀬川 幸一 (元常務理事)
オブザーバー	中尾 真一 (代表理事・会長)

本年度の「化学コミュニケーション賞 2014」は㈱化学工業日報社、(一社)化学情報協会、(独)科学技術振興機構、(一社)日本サイエンスコミュニケーション協会の共催により 2014 年 11 月 1 日から募集を開始した。

2015 年 1 月 10 日に締め切り、個人 8 件、団体 2 件、合計 10 件の応募があった。

[化学コミュニケーション賞 2014 賞選考委員会]

委員長	村松 淳司 (東北大学 多元物質科学研究所 教授)
委員	五十嵐 哲 (日本化学連合 常務理事)
委員	内田麻理香 (サイエンスライター/サイエンスコミュニケーター)
委員	岡野 知道 (ライオン(株) 研究開発本部長 執行役員)
委員	佐藤健太郎 (サイエンスライター)
委員	里川 重夫 (成蹊大学 理工学部 教授)
委員	関根 泰 (早稲田大学 先進理工学部 教授)
委員	津山 重雄 (化学情報協会 理事 企画管理室長)
委員	安永 俊一 (化学工業日報社 企画局 局長)
委員	渡辺 政隆 (日本サイエンスコミュニケーション協会 副会長)

これらの応募案件について、あらかじめ選任された上記選考委員により書面審査を行ったうえ、2015 年 2 月 17 日に開催の最終選考委員会で、化学コミュニケーション賞 3 件 (個人 2 件、団体 1 件) および審査員特別賞を下記の通り選定した。

化学コミュニケーション賞 (団体)

受賞者: 「伝統の継承と化学のおもしろさ」開発チーム
業績の課題: 「伝統工芸を介した化学技術の魅力発信」

化学コミュニケーション賞 (個人)

受賞者: 河合孝恵 (富山高等専門学校・物質化学工学科 教授)
業績の課題: 「宝石を用いた魅力ある化学実験教材の開発および実践」

化学コミュニケーション賞 (個人)

受賞者: 宮本一弘 (開成中学・高等学校 教諭)
業績の課題: 「幼児向け化学実験教材の開発と展開」

審査員特別賞（個人）

受賞者：菅原 晃（鶴岡工業高等専門学校名誉教授）

業績の課題：「出前実験による長年の化学コミュニケーション活動への貢献」

賞の授与式は3月18日開催の第8回日本化学連合シンポジウム「資源リスクマネジメント：化学は何ができるか」（化学会館 7F ホール、13:00～19:00）の席上で挙行された。

2.4 第8回日本化学連合シンポジウム

本シンポジウムは企画委員会が担当し、第1部では、「資源リスクマネジメント：化学は何ができるか」を取り上げる。資源問題には、エネルギーを含めた資源枯渇、希少資源確保、代替資源開拓（元素戦略）、偏在資源管理などの様々な因子が複合的に関連している。そこで、資源リスクマネジメントの現状を認識するとともに、化学が果たすべき役割について議論する。第2部では、本連合が化学・化学技術に関する啓発活動、情報発信を通じ、「化学」を社会に浸透させ相互の理解を深めることに貢献した個人や団体を顕彰する「化学コミュニケーション賞2014」の表彰式に先立ち、科学コミュニケーションについての講演を依頼した。

[企画委員会]

委員長	澤本 光男	（代表理事 副会長）
副委員長	只野 金一	（理事 有機合成化学協会）
委員	伊藤 眞義	（理事 日本ゴム協会）
委員	小柳津研一	（一 早稲田大学 先進理工学術院）
委員	唐津 孝	（理事 光化学協会）
委員	立間 徹	（理事 電気化学会）
委員	山元 公寿	（一 東京工業大学 資源化学研究所）

第8回日本化学連合シンポジウム

「資源リスクマネジメント：化学は何ができるか」

日時：平成27年3月18日（水）13:00 - 19:00

会場：日本化学会 化学会館 7階ホール

主催：（一社）日本化学連合

後援：（独）科学技術振興機構、（株）化学工業日報社、（一社）化学情報協会、
（一社）日本サイエンスコミュニケーション協会

プログラム

第1部 <13:00 - 15:20> 《司会 日本化学連合 副会長・企画委員会委員長 澤本 光男》

講演1 「エネルギー・気候変動リスクと日本の戦略」

（一般財団法人 日本エネルギー経済研究所・研究顧問） 十市 勉

講演2 「水資源の確保と国際標準化」 （一般財団法人 造水促進センター 理事）大熊那夫紀

講演3 「水素エネルギー その期待と課題」

（新エネルギー・産業技術総合開発機構 新エネルギー部・主任研究員）大平 英二

講演4 「都市鉱山：貴金属のリサイクル」

（田中貴金属工業(株)・湘南工場）○奥田 晃彦・上田 哲也

第2部 <15:20 - 17:00>

講演 1 「サイエンスコミュニケーション研究の広がり」

(東京大学大学院理学系研究科・准教授／広報室副室長) 横山 広美

表彰式「化学コミュニケーション賞 2014」 <16:00 - 17:00>

《司会 日本化学連合理事 里川重夫》

選考委員長挨拶・選考結果説明

(日本化学連合 副会長・化学コミュニケーション賞選考委員長) 村松 淳司

授与式

(日本化学連合 会長) 中尾 真一

業績紹介

1. 伝統工芸を介した化学技術の魅力発信 (「伝統の継承と化学のおもしろさ」開発チーム)
2. 宝石を用いた魅力ある化学実験教材の開発および実践

(富山高等専門学校物質化学工学科) 河合孝恵

3. 幼児向け化学実験教材の開発と展開 (開成中学校・高等学校) 宮本一弘
閉会の挨拶 (日本化学連合 副会長・企画委員会委員長) 澤本 光男

第3部 <17:15 - 19:00> 交流会

シンポジウムの参加者は一般参加者 87 名、招待参加者 6 名、化学連合役員 13 名、計 106 名で、大変盛況であり、講演内容も充実しており、成功裏に終了した。

3. 会計

平成 26 年度は会費収入以外に賛助会費、補助金の一部 (化学工業日報社、化学情報協会より) をもって活動する予算を立て、「化学コミュニケーション賞 2014」、「第 8 回日本化学連合シンポジウム」の企画・実施に注力した。順調に予算を執行し、次期繰越金は約 29 万円である。

4. 学協会の活動の連携業務開拓の継続

他学協会と連携したシンポジウムを平成 19 年度より継続している。平成 26 年度は以下の企画が実施された。

1. 平成26年5月21日 (水)、触媒学会工業触媒研究会・触媒学会水素の製造と利用のための触媒技術研究会・化学工学会反応工学部会触媒反応工学分科会・化学工学会反応工学部会共催の触媒化学と化学工学の融合を考えるシンポジウムに本連合として協賛を行った。
2. 平成 26 年 8 月 8 日 (金)、高分子学会グリーンケミストリー研究会主催の第 3 回グリーンケミストリー研究会シンポジウムに本連合として協賛を行った。

5. 将来構想委員会

昨年度に引き続き、将来構想委員会を 2 回開催し、定款および規程類の整備を行った。その結果を「定款および規程類の改訂案」として理事会に提出して、審議した。

[将来構想委員会]

委員長	岩澤 康裕	(代表理事 副会長)
副委員長	前田 瑞夫	(理事 日本分析化学会)
委員	大塚 浩二	(理事 クロマトグラフィー科学会)
委員	川島 信之	(理事 日本化学会)
委員	小松 隆之	(理事 触媒学会)
委員	須藤 雅夫	(理事 化学工学会)
委員	長谷部伸治	(理事 京都大学)
委員	山下 仁大	(理事 日本セラミックス協会)

委 員	山本 鋼志	(理事 日本地球化学会)
委 員	横山 祐作	(理事 日本薬学会)
委 員	渡邊 正義	(理事 高分子学会)

6. 情報発信

化学連合ニュースは本年度4回発行した。正会員、賛助会員、役員、委員に送付しており、平成26年2月下旬に91号「化学コミュニケーション賞2014」受賞者選考の報告を発行した。

7. 処務の概要

7.1 理事会 4回

社員総会 1回

7.2 理事 23名、監事 2名

7.3 委員会など

運営委員会	2回	(化学コミュニケーション賞企画・実施、定款・規程類の改訂)
企画委員会	1回	(シンポジウム企画・実施)
将来構想委員会	2回	(定款・規程類の改訂)
正会員会長会	1回	
正会員事務局長会	2回	
顧問会	1回	

以上